

主な内容

- ・新設 都市交流学科(大学)
- ・新設 キャリア・コミュニケーション学科(短大)
- ・神戸山手女子高校音楽科40周年



神戸山手通信

表現芸術学科 / 専攻科

2004年度 卒展

神戸山手学園広報準備委員会 <http://www.kobe-yamate.ac.jp>
 〒650-0006 神戸市中央区諏訪山町3-1
 tel 078(341)6060 mailto:somuka@kobe-yamate.ac.jp

2005年2月23日~28日
 10:00~18:00
 神戸アートビレッジセンター
 KAVCギャラリー

大学に学科新設!

人文学部 都市交流学科

神戸山手大学 人文学部

都市交流学科

国際都市神戸に生まれる日本初の学科

阪神大震災から十年目を迎えた二〇〇五年一月、一六八カ国が参加した国連防災世界会議が神戸で開催され、国際的な防災指針である「兵庫行動枠組」が採択されました。開催直前にスマトラ島沖で地震・津波がおこったこともあり、神戸の取り組みはより一層、世界から注目されることとなりました。

また神戸は、神戸市によって「観光交流都市宣言」が出されたことでも明らかのように、観光が重要な産業になっています。市の調査によれば、神戸は北海道、沖縄、京都に次ぐ訪れたい街の第四位となっています。また、ルミナリエの活況はもちろんです。震災後の街と家族の再生をテーマにしたNHKの連続テレビ小説「わかば」も好評を博しているようです。

このように様々な人々から注目を集める神戸の中心に位置する神戸山手大学は、二〇〇六年度に都市交流学科を開設し、新しい時代にふさわしい産業や文化の創造をめざす人材の育成に務めることになりました。

三つのコース

観光・国際文化コースでは、観光都市・神戸の魅力学び、観光産業に携わることのできる人材を育成します。神戸の街をフィールドワークしながら学ぶ観光文化論。外国人を案内するための語学力を身につける通訳ガイド英語。その他、旅行業務論、航空産業論、温泉論、観光実習などの科目が用意されています。

まちづくり・神戸学コースでは、住む人にも訪れる人にもやさしい「まちづくり」を実践できる人材を育成します。神戸の市街地をケーススタディに、「まち」を考える神戸学入門。神戸市内の各所で行われているまちづくりの現場を訪ねるまちづくり論。その他、景観デザイン論、地域文化論、N

PO論などの科目が用意されています。社会心理・メディア文化コースでは、人とのつながりについて考え、自治体やマスコミ、企業の広報セクションで活躍できる人材を育成します。人間の心の不思議に迫る認知心理学。世界中の様々な文化や暮らしを学ぶ映像人類学。その他、都市心理学、カウンセリング論、臨床心理学、情報社会論、消費生活論、メディア文化実習などの科目が用意されています。

国際化・地域性を生かした職種へ

都市交流学科では、旅行業務取扱管理者、福祉住環境コーディネーター、教員免許(中学校社会・高校地歴教職課程認定申請予定)などの資格取得を支援し、在学中にさまざまな就職支援プログラムを実施することにより、知識と技術と資格、夢と情熱を持った人材を送り出します。



神戸山手短期大学
 キャリア・コミュニケーション学科

社会人に求められる三つの力

自分にはどんな能力があるのだろうか。自分は何をしたいのだろうか。自分が一番よく知っているのは「自分」ですが、わからないところだらけ...というのが実際です。自分とは何なのか。これを探ることがキャリアを身につけるといふことなのではないでしょうか。

その際、いかなる職種、いかなる職業であつても、社会人として求められる力は同じです。それはコミュニケーション能力、企画・創造力、そして実践力。

神戸山手短期大学に新設されるキャリア・コミュニケーション学科では、この三つの力を総合的に身につけることを目標としています。

学びを深めるための三つのコース

英語コミュニケーションコースでは、ネイティブ・スピーカーによる週二回のアクティブ・イングリッシュ。保育園での実習を行う児童英語。英検、TOEIC、TOEFLの試験対策。その他、シネマイングリッシュ、通訳演習、インターネット英語などの科目を用意し、実践力を鍛えます。

ビジネスコミュニケーションコースでは、現場に直結した観光英語、ホテル英語、旅行業務実務、航空業務、フライダルマネージメント、ビジネス実務、起業プランニングなどの実践的な科目の他、統計処理、表計算、データベース等のOAスキルも習得することが出来ます。

文化コミュニケーションコースは、外国との交流をはかる際に、きちんと把握すべき日本の文化や歴史を学ぶコースで、日本文化、日本文学、神戸文化論、マンガ論、アニメーション論、日本語ワークショップなどの科目が用意されている他、創作ワークショップやシナリオライティング、コピーライティングなども学ぶことが出来ます。

短大に学科新設!

キャリア・コミュニケーション学科

2006年4月 設置届出予定

神戸山手大学に **都市交流学科** 新設!

観光・国際都市「神戸」の特性を生かす学び

神戸山手短期大学に **キャリア・コミュニケーション学科** 新設!

将来の目標を確実に見据えたキャリア教育



神戸山手女子高等学校音楽科・創立四〇周年

県内で最も伝統ある音楽科

神戸山手女子高等学校音楽科はこの度四〇周年を迎えます。昭和四一年に創設された音楽科は県下では最も古く、全国的にも伝統ある学校として知られています。そもそも音楽科がどうして創設に至ったかという点、

当時学園理事長であり、短大の学長と中高的の校長でも在られた、故勝本鼎一先生が本学園の教育方針の一つとして掲げられた、「調和と協力」の精神を具現化するため、県下の高等学校にさきがけて、本学園高等学校に音楽科が創設された。

「神戸山手女子高等学校に音楽科を新設するに就いては、賛否の声、異常と思えるほど、入り乱れ、熱烈な討議が何回となく繰り返されましたが思い出されず」。これは、故勝本鼎一先生自身から「音楽科創設一〇周年記念誌」に寄稿された、「音楽科生誕十周年」と題する挨拶文の一部であるが、この文章から音楽科開設までの大変な苦勞と、ご努力が想像される。(矢野正文「未来に飛翔する高等学校音楽科をめざして 音楽科の過去・現在・未来」)

開設当初の音楽科専任の先生方が立てられた3つの目標は
 一 先生の和と生徒が醸し出す、豊かな暖かい音楽指導。
 二 音楽の厳しさから培われる生きる力。
 三 しつけの徹底から生じる、基礎段階における音楽表現の正しさ。(同)

音楽科の日常

さて、音楽科は日頃どんなことを勉強しているのでしょうか。まず生徒達はそれぞれひとつの専攻を持っています。ピアノ・声楽・作曲・バイオリン・チェロ・ビオラ・フルート・トランペット・ホルン・クラリネット・打楽器・オルガン…。それらの専攻を伸ばすために、音楽の基礎、表現法、音楽の歴史、音楽の理論、副専攻(全員主専攻に対して副専攻を持っています)などを通じて、あらゆる側面から音楽を学びます。それらは授業の中で学ぶことができ、個人

の専攻についても授業の中でレッスンをを行います。専攻については年に二回テストがあります。

音楽は個人プレーの要素が強いのですが、アンサンブルで他の人の音を聴く、呼吸を合わせるなど協調性をも養います。具体的には合唱・合奏・ピアノ重奏・声楽重唱などですが、それらの発表の機会も数多く、定期演奏会(音楽科の最も重要な演奏会)、個人の専攻の発表を校外・校内で、また小学校・中学校・老人ホーム・幼稚園などへの訪問演奏会、サマーコンサートINささやま、各種イベントなど、一年間で本当にたくさん様々な演奏会に出演します。また五年毎に記念演奏会を開催していますが、今年は十二月十四日神戸文化ホールで演奏会を開催します。

そんな活動をするわけですが、やはり個人での練習を欠かすことは出来ません。学校の勉強をひとすると個人の練習は九と言つてよい位練習・練習・練習の毎日です。毎日専攻実技の練習で自分と数時間向き合います。練習は地道な作業で努力・忍耐が必要とされますが、その結果自分独自の練習方法を見つけている生徒もいます。



神戸山手女子高等学校音楽科による定期演奏会。2004年10月28日、神戸文化ホール(中)で行われた第36回定期演奏会では、モーツァルトの「交響曲 第40番 ト短調 K.550」などの難曲・大曲を扱った。

また演奏会は生半可なことでは出られない為必死で練習をします。でも練習を重ねてもうまくいかないことも多々あります。常に緊張感、プレッシャーと隣り合わせ、相当なものです。舞台では演奏しないで帰ることは出来ません。また誰も助けてくれません。責任感・自立心・集中力などが必要です。そう、音楽は自立心を養います。また技術ばかりでなく表現力も絶対必要なことです。感性があっても表現力がなければどうしようもありません。世界にたった一つの私だけの表現。結構生徒達は表現方法でつまづくことも多いようです。

音楽を学ぶ心がまえ

音楽の世界は古き良き伝統のもとに三五〇年前の音楽を継承しています。師弟関係が厳しい場合もあります。それ故外に出て生徒が恥ずかしい思いをしないように、礼儀・挨拶・言葉使い・演奏マナーを教えます。レッスンの時「お願いします」に始まり「ありがとうございます」で終わる。最初なかなか出来なかつた生徒達も卒業の頃にはマスターでき、音楽大学の先生方からも「山手の生徒たちはマナーがきちんとしている」と褒めの言葉もよく頂きます。

海外研修旅行

音楽科の生徒達は校外での演奏会の経験も多いわけですが、大きな行事としては海外研修旅行(修学旅行)があります。現在オーストリア(ウィーン・ザルツブルク)ドイツ方面に演奏会・公開レッスン・オペラ鑑賞等を中心に行っています。日頃接しているモーツァルト・ベートーヴェンなどが生活していた場や歩いた道など、空気を感じ、歴史的建造物などを見学します。また本場の先生による公開レッスンは本場の音楽に直接接する良い経験の場になります。演奏会にはウィーンコンツェルトハウスや楽友協会ホールの黄金の間、ノイシュタット博物館など夢見るような場所、音響の中で経験させていただきました。またウィーンの学校で交換演奏会もしました。これらの海外での経験が卒業後の進路として留学を選ぶ生徒も多く出てきています。



海外研修旅行 ウィーン楽友協会ホール

卒業後の進路

音楽科の卒業生は約一三〇〇名になります。演奏活動をしている人、学校で教鞭をとる人、音楽教室で教える人、個人で教える人、音楽療法士をしている人、ボランティア活動をしている人、趣味として音楽を楽しんでいる人、まったく音楽から離れた人、主婦をしている人、学生…。たくさんの卒業生の共通点は十六、十八歳の多感な時に音楽に向き合ったということ。そしてどの人も真面目に取り組んだということ。彼女達が高校時代、緊張して実技テストを受けたら、舞台上に立ったり、皆でアンサンブルを楽しんだり、なかなか得られない経験を、自分自身を見つめながら自分を高めていったことは大変誇りにして良いことだと思います。

これからの音楽科

今年四〇周年を迎える山手女子高等学校音楽科は開設当時から音楽という一本の柱のもと、幅広い人間教育をしています。最初の三つの目標は今でも音楽科の先生方の目標でもあり、音楽を学ぶ生徒たちの芯の強さ、感性の豊かさは現代にもっとも要求されている女性の姿ではないでしょうか。

(音楽科主任 賀集 律子)